

財団

# 日本国際高等学術会議のビジョン

Japan/International Council of High Studies of Sciences  
JICHSS

日本の文化資本／ホスピタリティ技術の視座からの概要説明書  
& <日本資本ホスピタリティ大学>創設の学術基盤

文化資本学会は、  
諸学会を創設していくとともに  
日本高等学術会議の構築と  
日本ホスピタリティ大学の設立を  
実現していきます。

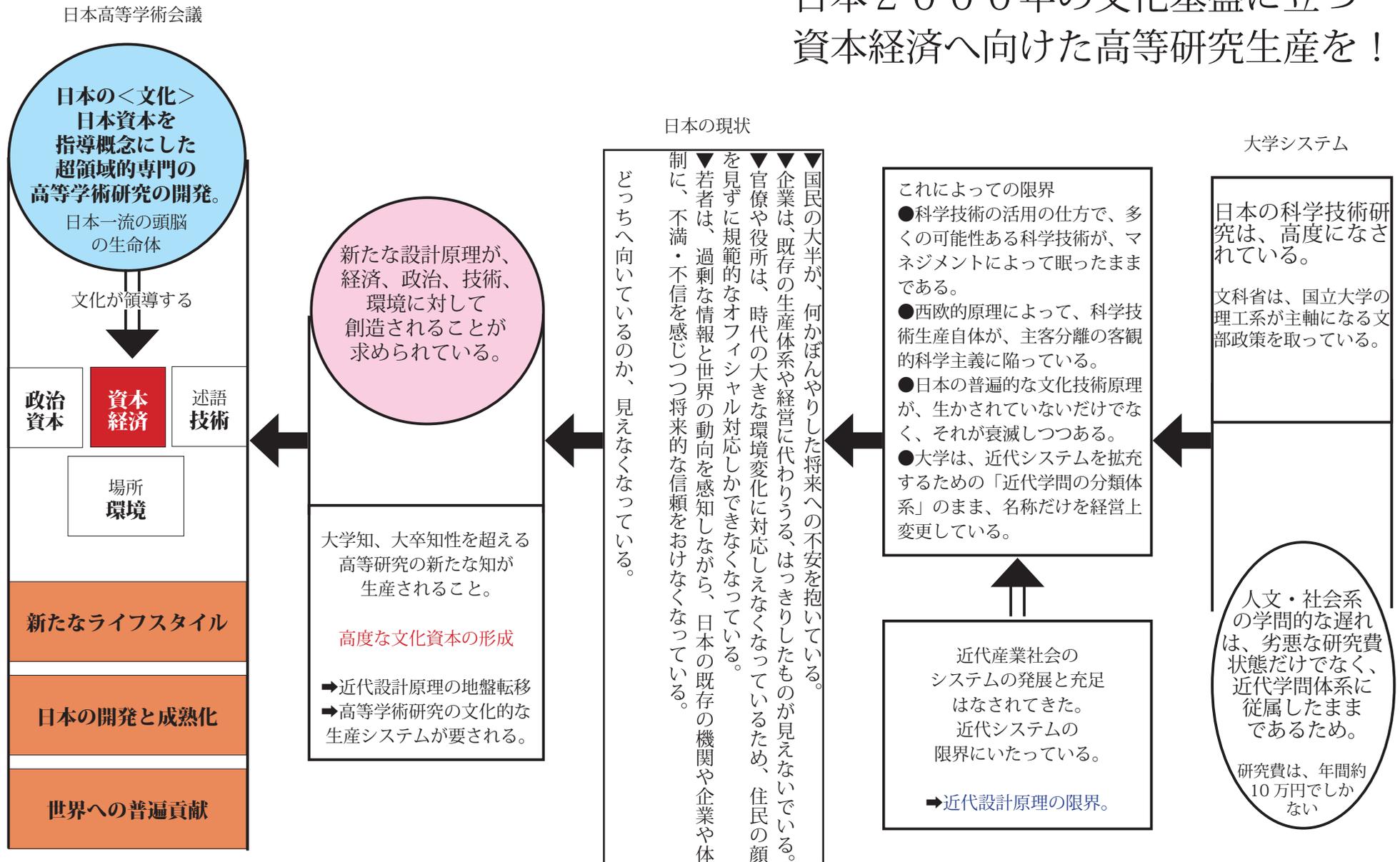
© 制作 EHESC/JHA

# 近代システムの現状を超える

## 近代 150 年の限界を超える

### 日本 2000 年の文化基盤に立つ

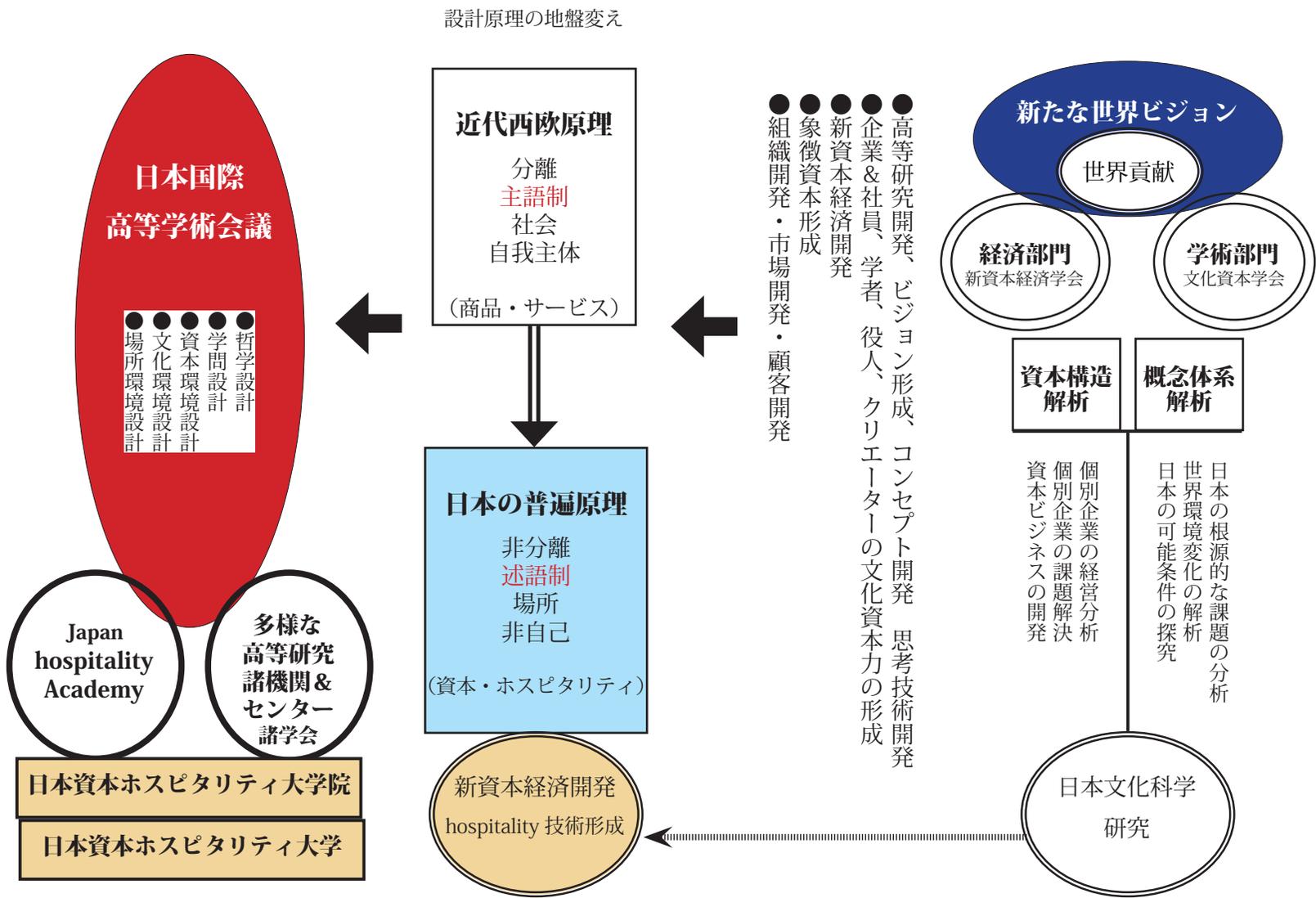
#### 資本経済へ向けた高等研究生産を！



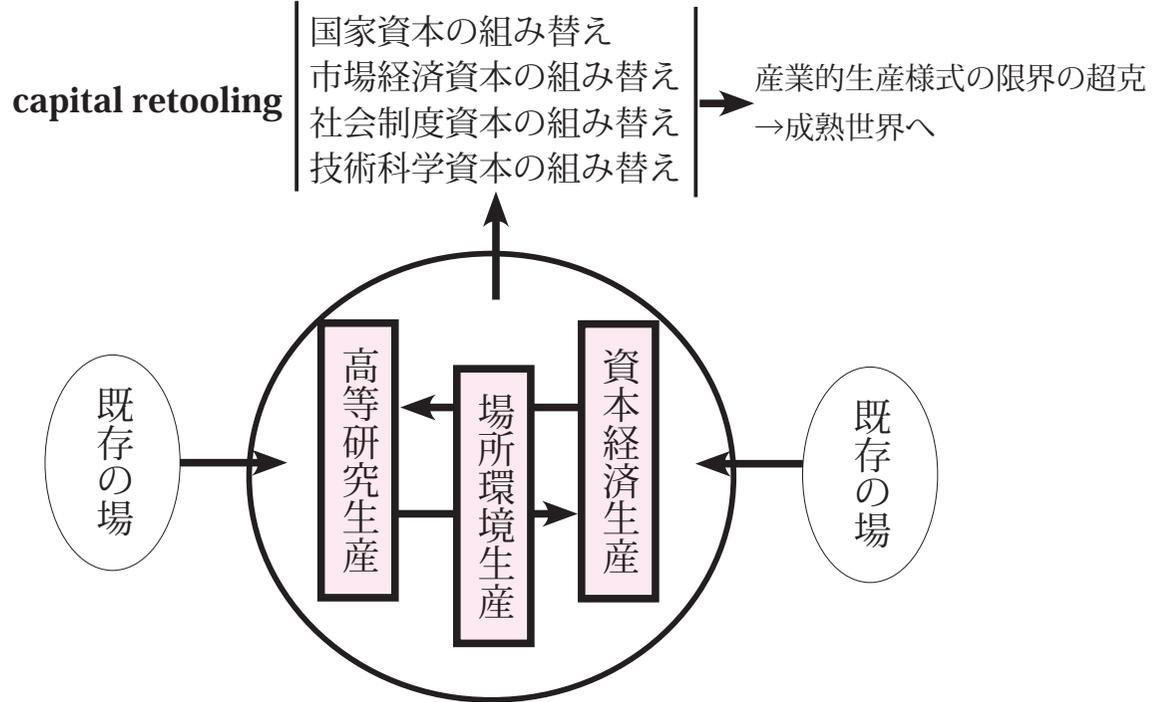
# 近代西欧原理中心から日本の普遍原理の基盤へ

## 新資本経済開発は、西欧原理のプラスを継承しつつ 日本の普遍原理に立って、学術と経済とが協働することです。

新たな「資本経済」の可能性を探究し開発するには、認知・認識・思考、技術の言説・理論の基盤が新たに再確認・再構成される必要があります。近代西欧原理に対して日本の普遍原理を発掘し構成することです。これを開発コアにして、高等学術の研究システムを構築し、日本の新たな飛躍的發展及び国際世界へ寄与します。



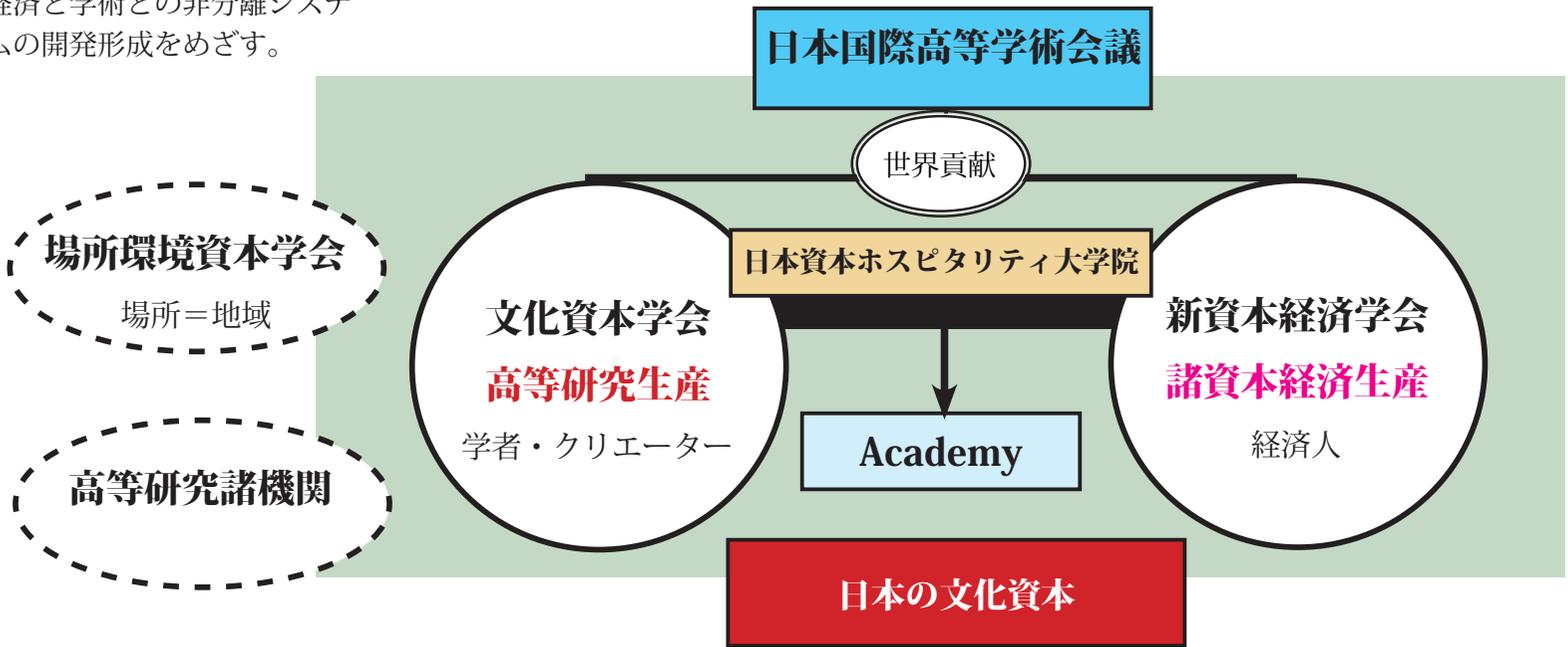
「諸資本経済生産」と「高等研究生産」とを、  
 新資本経済学会と文化資本学会の両輪でもって  
 新たな組み合わせへと稼働させていきます。



**文化資本投資**

- 日本を活性化する。
- 生活の well-being を作る。
- 日本文化を掘り起こし、  
 存続させ、活用する。
- 資本経済を創生する。
- 研究生産を高度化する。
- ホスピタリティ・リーダー  
 を形成する。

経済と大学とを分離した近代  
 産業システムに代わって、  
 経済と学術との非分離システ  
 ムの開発形成をめざす。

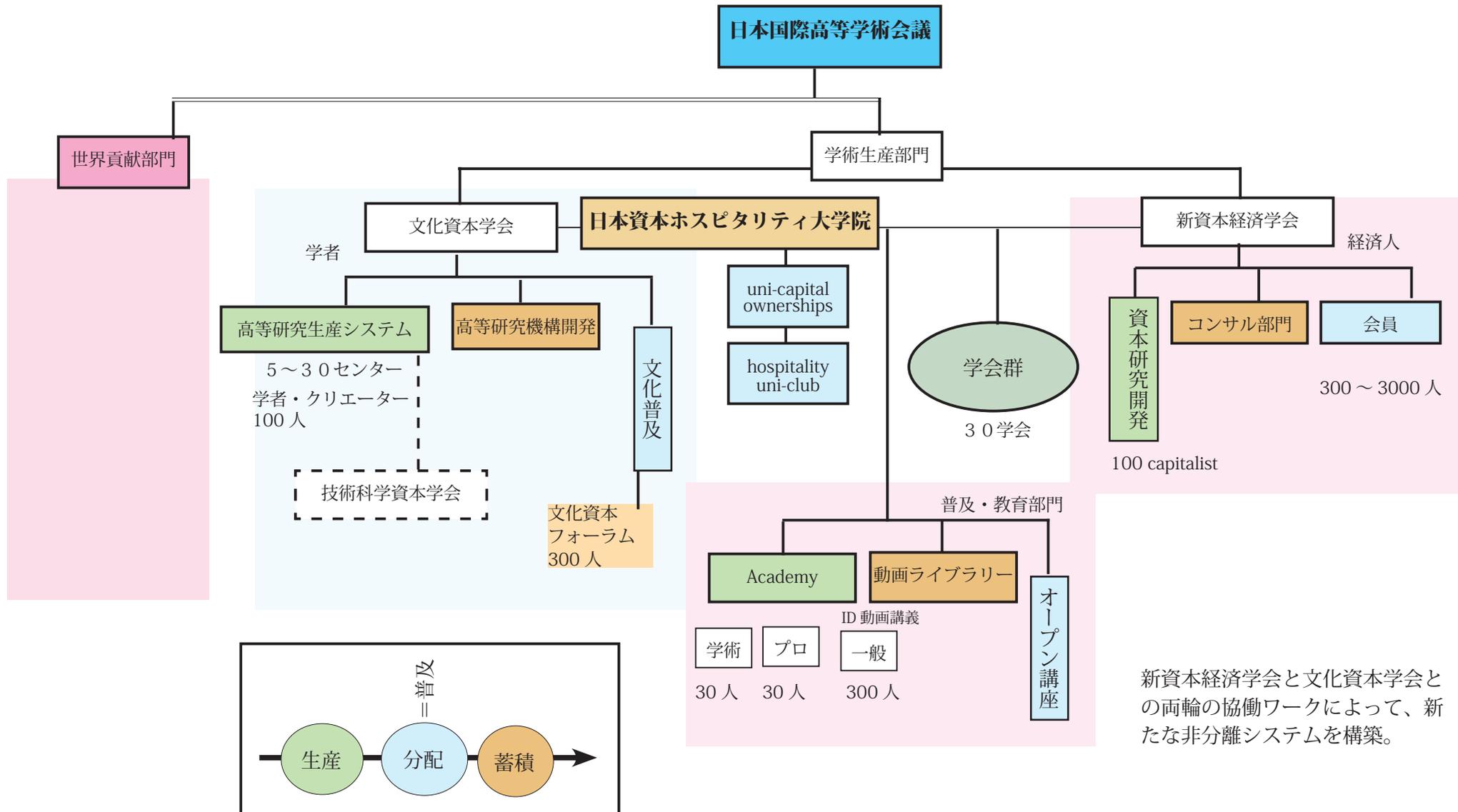


# 概念図

文化・環境・経済をホスピタリティ技術によって非分離相互構成することが、高等学術会議のビジョンです。

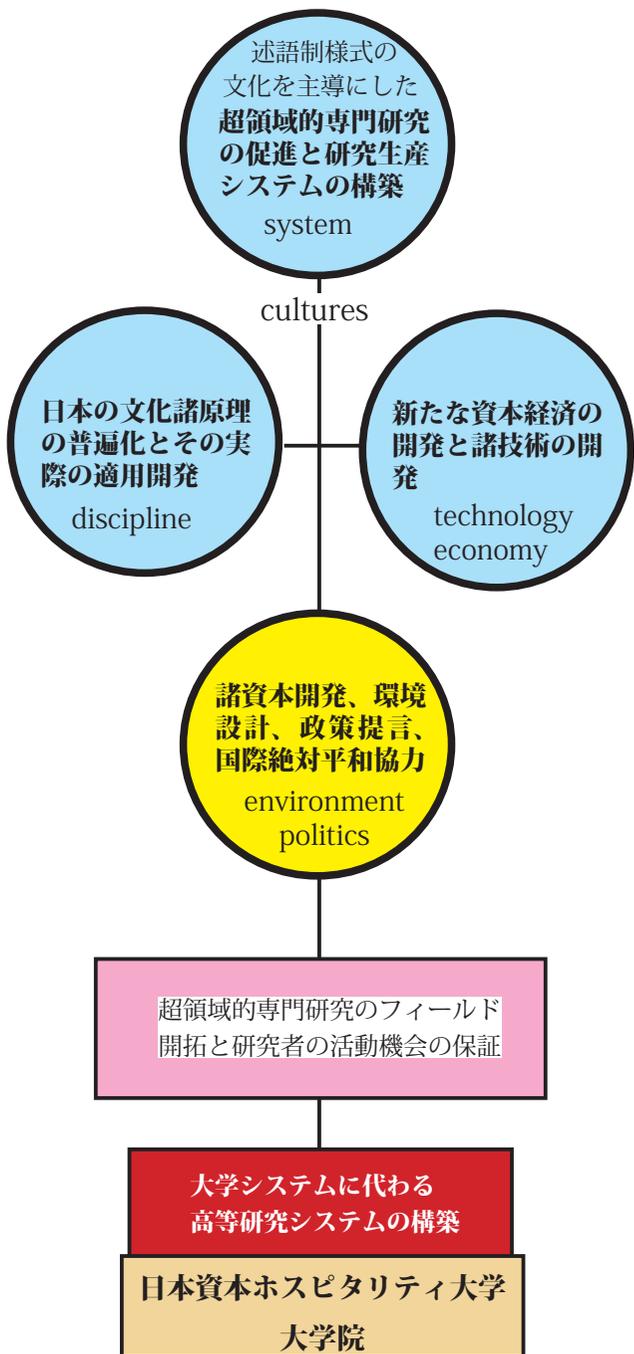


学者・クリエイターによる高等研究生産、経済人による資本経済生産、そして新たなホスピタリティ・スキルの人材形成を、有機的に構成します。



日本国際高等学術会議は、大学システムに代わって、超領域的専門の高等研究を創造的に促進し、日本及び世界の大転換において、日本が本質的に有する文化原理、ホスピタリティ技術その多様な日本文化諸資本をもって、新たな経済、政治、技術、環境、芸術など総体の諸資本開発へ領導的に貢献していくものです。

- 文化を主導にした高等学術会議です。
- 近代の科学・学問体系の分類体系を超越し、新たな超領域的専門研究transdisciplinary studiesの学術場を開いていきます。
- 高等学術による研究生産を、世のために活用していく、日本文化の述語制様式からの経済・政治・環境との非分離システムを構築していきます。
- 高等学術が実行される場と研究システムを構築します。



日本文化の数千年に渡る述語制文化様式において主語制化されている国家資本を組み替える可能条件を開く。

「学問」は、もはや近代学問体系に止まっています。世界の実態に対応しえませんが、大学知を超えて、超領域的専門研究を開削して、人々の暮らし、現実の諸環境に生かしていける高度で一流の研究・リサーチの生産がなされることです。「学術」機関は、官僚的な構成であってはなりません、自由な創造的研究生産がなされる機構であることです。現実世界へ寄与していくものです。「経済」は、プライベートな資本の固有さが、総合性を構成して機能していくことであり、文化資本の特性を生かし、文化蓄積されてきた述語的文化技術の潜勢力を活用し、環境資本、社会資本、象徴資本など諸資本を稼働させて、資本経済の経済資本を活性化させることです。「人材」は、大卒知の次元を超えて、世界を射程に入れて、自らの個別の局面に総合的かつプロフェッショナルに対応していける高い「文化資本」を領有した存在となることです。本会議は、これらを有機的にリンクさせ、新たな時代の新たな資本経済を開発形成し、日本が世界の中で指導的に貢献していける新経済秩序の構成に寄与する超領域的専門の諸研究センター・学会を機動させていく学術会議です。

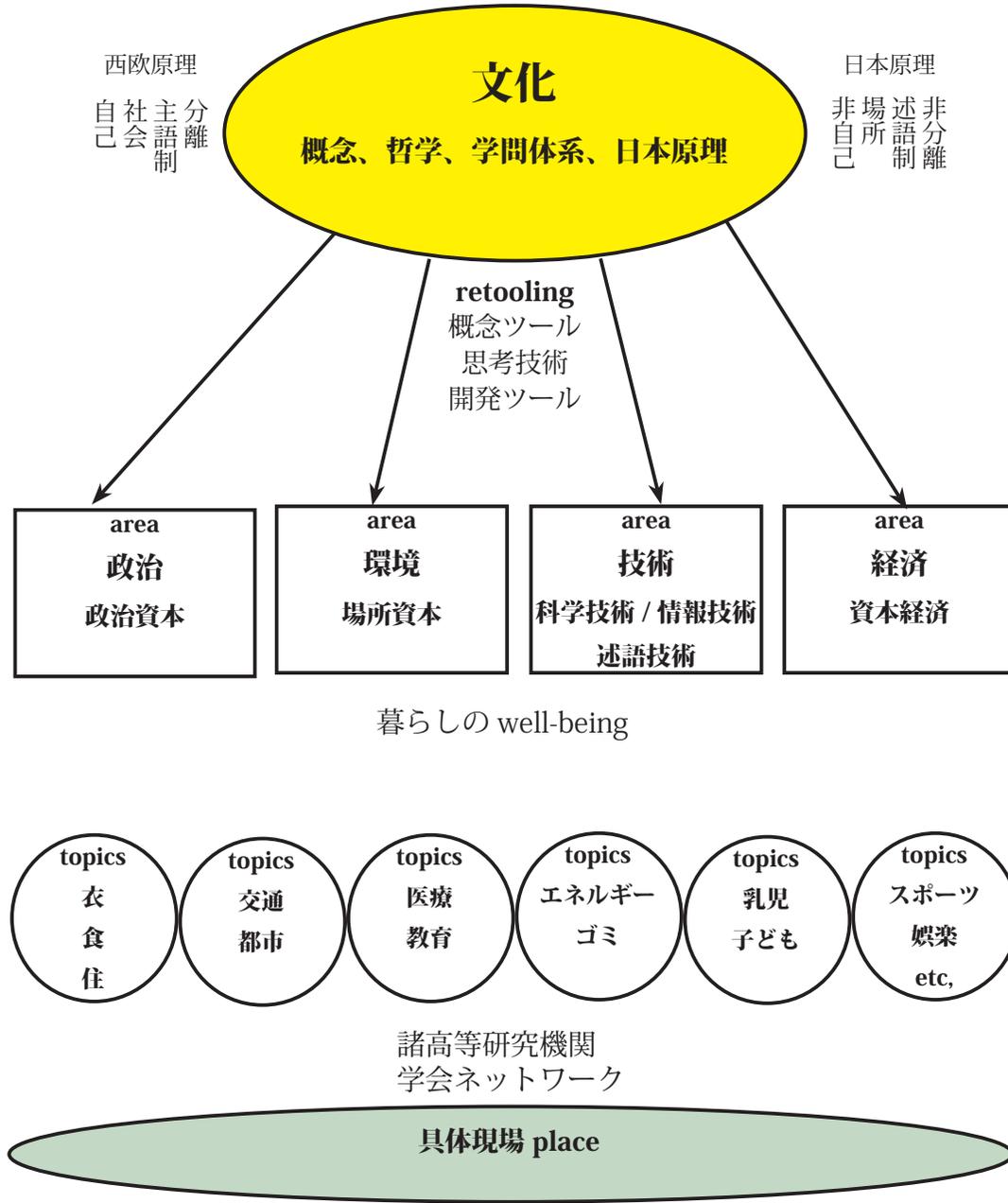
# 新たな設計へのディレクション

文化設計を主導にした高等学術会議です。経済、技術、環境、政治の探究や開発における概念、思考、手法、技術を、近代学問体系に基づいた仕方に代わって、retooling して、暮らしの well-being を設計していきます。

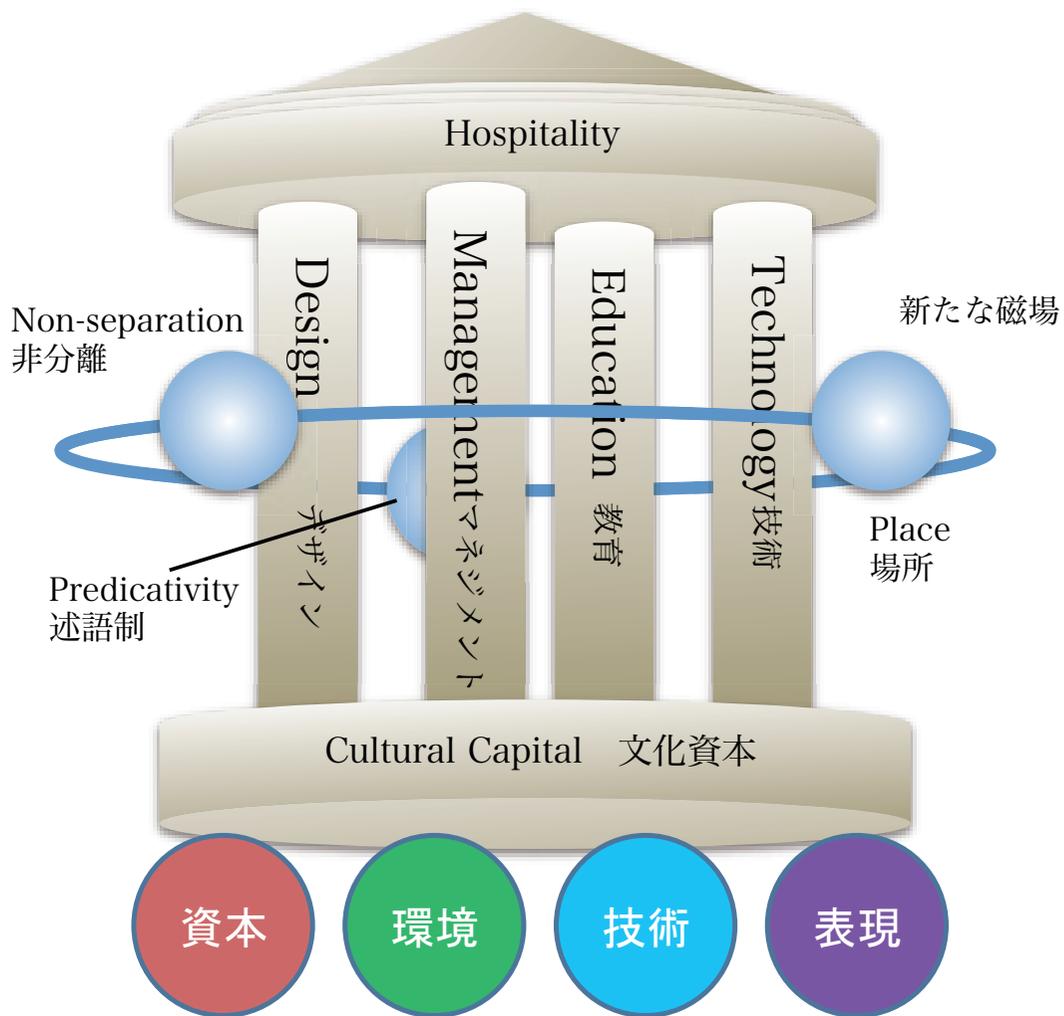
様々なトピックを種別的な学会として、その個別の超領域的検証・探究を固有になし、相互交通しあいながら、企業、役所、諸機関に実際に活用しうる具体化をサポートします。

「文化」とは、科学、技術、経済、政治を領導するものであり地盤です。消費文化・大衆文化を否定するものではありませんが、それが「日本」本来の文化遺産、その高度な蓄積・実感をないがしろにし、今や、消滅の危機にさえあることは、大きな問題です。相互共存することです。

文化によって、自然・環境への対応、作り方が変わってきます。日本の文化は、非常に高度な資本・技術・原理を持ちえています。大学知≡西欧的学問分類体系によって見えなくされています。それは、非分離・述語制・場所・非自己なのですが、その考察をさらに明証にし活用させていきます。日本原理と西欧原理の相反共存を学問設計することです。



# VISION設計軸



## 四つの設計軸

超領域的専門知の言説生産の下で、「資本」「環境」「技術」「表出」の四つのビジョン設計軸を設定して、ビジュアラル化・実際化の開発設計へ取り組めます。

日本の文化原理は

非分離／述語制／場所の磁場です。

それが日本の「文化資本」の地盤です。

それを、

資本／環境／技術／表現の

フィールドにおいて具体化します。



### 1. 資本

資本とは、ある物事がなされていくうえでの力の元である。象徴資本、文化資本、社会資本、そして自然資本の四つが基本的で本源的な資本である。環境資本は、これらから構成される。そして、技術資本、経済資本、政治資本が、その下位概念として立つ。商品を手盤にして考えると、この下位概念が基本的な概念となってしまう、実は「資本」概念がかき消されて、物質実体、政策、科学技術が分離され測定可能な対象のみとされてしまう。多様な対象を資本とみなして形成すること。

### 2. 環境

環境は、場所と地球との同一性からなる。場所自体が地球であるのだが、地球空間という画一・均質なものはありえない、生態的・生命的に多彩である。さらに、環境は測定不可能な閾にある。測定化された環境は、物理主義的環境であるにすぎず、そこへの配慮を強いる人間主義的環境が設定されてしまう。環境はかかる分離閾にはない。ヒト、生命、<もの>の非分離な述語的场所環境、場所資本である。資本に対応して、象徴環境、文化環境、社会環境、自然環境があり、その動的・静態的かつ生態的な構成体が場所環境である。多様な場所環境を、経済均質的空間環境とするとすべて見誤っていく。環境は、道徳的・倫理的な対象ではないが、諸個人のライフスタイルは環境への態度として種差化される。

### 3. 技術

技術は、基本的・本源的に、自律技術と他律技術との相互性から成る、これもまた象徴技術、文化技術、社会技術、自然技術から成り、その総体が環境技術として構成される。科学技術、経済技術、政治技術はその下位概念となる。技術は物質的なものだけではない、心の技術、自己技術、言語技術、幻想技術なるものが、想像的技術としてイメージ生産まで含んであり、情報技術と生命技術とがそこへ本源的に関与してくる。広義の技術概念をもって、技術設計はなされていくこと。

### 4. 表出

指示表出と自己表出から疎外表出される述語的表現世界が本源である。幻想表出と象徴表出が、想像的表出の作用によって表現される。体壁系と内臓系が、その本質根源にある。原生疎外表出の閾から純粹疎外の閾が疎外表出される。言語表出が、本質である。資本 / 環境 / 技術、さらに政治は、表出から疎外されていくが、表出固有の対象閾として、文学、芸術、音楽、像などでの表現域がある。イマジネーション、意識、意志、遊びなどの表出次元がある。日本語は述語的な言語資本である。

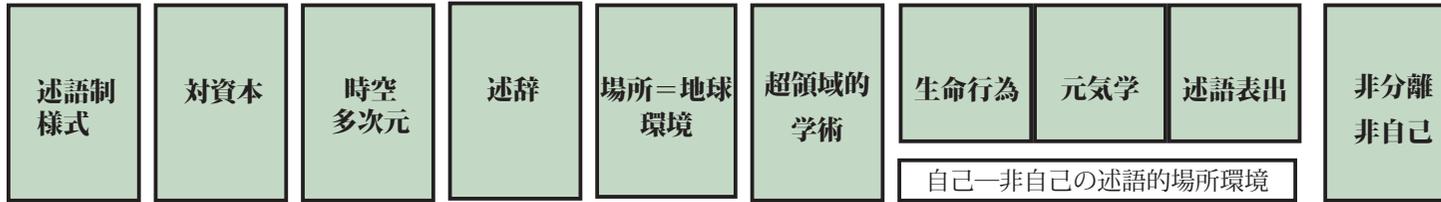
これらは、近代学問体系の、分離、主語・主体、社会、自我的自己の閾にはない。非分離、述語制、場所、そして非自己の哲学設計の閾にある。日本の原理の方が、本質的で普遍であるのだ。近代学問体系を超えていかねばならない、知・言説の文化生産・学問生産が要されている。設計とは、哲学設計、学問設計を同時に要される総体的な創造である。この四つの機軸から、日本の文化・資本を踏まえて、新たな学問体系が創成される。内部性の論理ではない、外部性の論理であるが、表出疎外の発生・生成の論理をもたないと構造主義化されてしまう。人間主義 / 科学主義、さらに構造主義 / ポストモダニズムの原理をこえていかねばならない。それは、民族国家 / 国民画一市場、社会均質空間の設計を実際的に超えていくことである。未熟な産業<社会>経済設計、つまり資本主義＝社会主義の産業的生産様式を超えることだ。商品・サービスの経済設計、規範化・規則化の政治社会設計をこえていく、資本・場所・ホスピタリティの経済である。

# 日本の設計 direction 概要：資本の循環と回転の総過程の経済政治 世界貢献しうるものとして

日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>●主語制様式の集中化と客観への総合の主客分離の国家資本に代わる、述語制様式の国家資本構成の探究。</li> <li>●社会空間の国家配備に代わる、多元的な場所ごとの限界経済・環境経済の国家配備の多様な創出。</li> <li>●集中型配分の技術編制に代わる、分散型システムの探究。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●その、総体が、日本の総生産力を高めていく。世界において先導的な役割をはたしていく「&lt;日本&gt;の資本」の普遍性の探究。</li> <li>●国家間均衡の日々戦争状態のヨーロッパ型設計に代わる絶対平和の国防的体制の探究。</li> </ul>
場所 環境 都市	<ul style="list-style-type: none"> <li>●場所＝地球を土台にした、経済・技術・文化・環境・政治の総体的な環境開発の探究。</li> <li>●場所が自主的に固有の環境経済を創出し、場所市場を創出開拓する。</li> <li>●場所の歴史的資本をふまえた場所文化の経済化の探究。場所資本と場所文化技術の開発。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ゾーニング的都市設計に代わる、場所シティの探究。</li> <li>●グローバル・シティと場所シティの共存空間の構成。</li> <li>●伝統技術と先端技術との協応を創造する述語的な技術開発。場所交通システム etc.</li> <li>●場所住民の well-being を形成していく新たなライフスタイルと場所環境の設計。</li> </ul>
企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●商品・労働集中型経済に代わる、文化資本者の資本経済の探究。</li> <li>●ナショナル画一市場に代わる、場所多元的市場の可能性の探究。</li> <li>●新たな収益性の多様な様態の探究。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●企業生産のパブリック環境への対応の探究。</li> <li>●日本文化と先端技術を活かした企業生産の探究。</li> <li>●ワークの社会的分業、縦割り分業の分類化に代わる、横断型ワークの多様な形態の考究。</li> <li>●内部留保による企業停滞に代わる、生産諸条件投与</li> </ul>
技術 情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>●分離の客観的科学技術中心に代わる、非分離の述語的技術の先端的な開発の探究。</li> <li>●日本の伝統技術に構成されている文化技術の先端的な可能条件の探究と開発考究。</li> <li>●道具 tools と人とのコンビビアルな構成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●データ情報ではなく、情報資本・情報生成の情報技術の開発。</li> <li>●第二自己の閉鎖社会へ解き放たれた＝閉じ込められたウェブ世界に代わる、パブリックな情報世界の探究。</li> </ul>
人材資本	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ホスピタリティ自己技術を有した文化資本方能をもったリーダーの育成。</li> <li>●賃労働者スタイルに代わる、文化資本者スタイルの探究。</li> <li>●開発と教育の相互性のある学び。ビジネス＝教育の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実行。</li> <li>●場所環境を設計開発しうる人材の形成。</li> <li>●新たな教育プログラムをもった、大学に代わるアカデミーの創設。</li> </ul>
生活者	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新たなライフスタイルの多様性の探究。</li> <li>●欲望・快楽の消費主体的満足に代わる、欲動・享楽のライフスタイルのあり方の探究。</li> <li>●国民・市民の社会的代行行為者に代わる、場所住民からの国家関与の仕方の探究。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住宅ハウジングに代わる、場所 dwelling の居住生活環境空間の開発探究。</li> <li>●プライベートなものパブリック環境との共存。</li> </ul>
政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高度な政治資本による新たな統治技術のあり方の探究。</li> <li>●国家ビジョン、国家理性の新たな形成と、それに基づいた統治諸技術の開拓探究。</li> <li>●場所を基盤にした場所政治の統治の探究。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住民参画型の直接政治の可能条件の探究。</li> <li>●政党政治の限界に代わる、新たな政治形態の探究。</li> <li>●諸個人の政治的自律性の復回。</li> </ul>

科学・技術・環境・経済・政治における日本の設計を  
 領導しうる文化研究の諸資本・諸技術の探究です。

産業消費的な安楽さに潜む  
 諸個人の不安の根拠を解析し、  
 近代的設計に代わる新たな環境・文化・経済の  
 総過程における諸資本の活用と  
 新たなシステム設計を探究します。

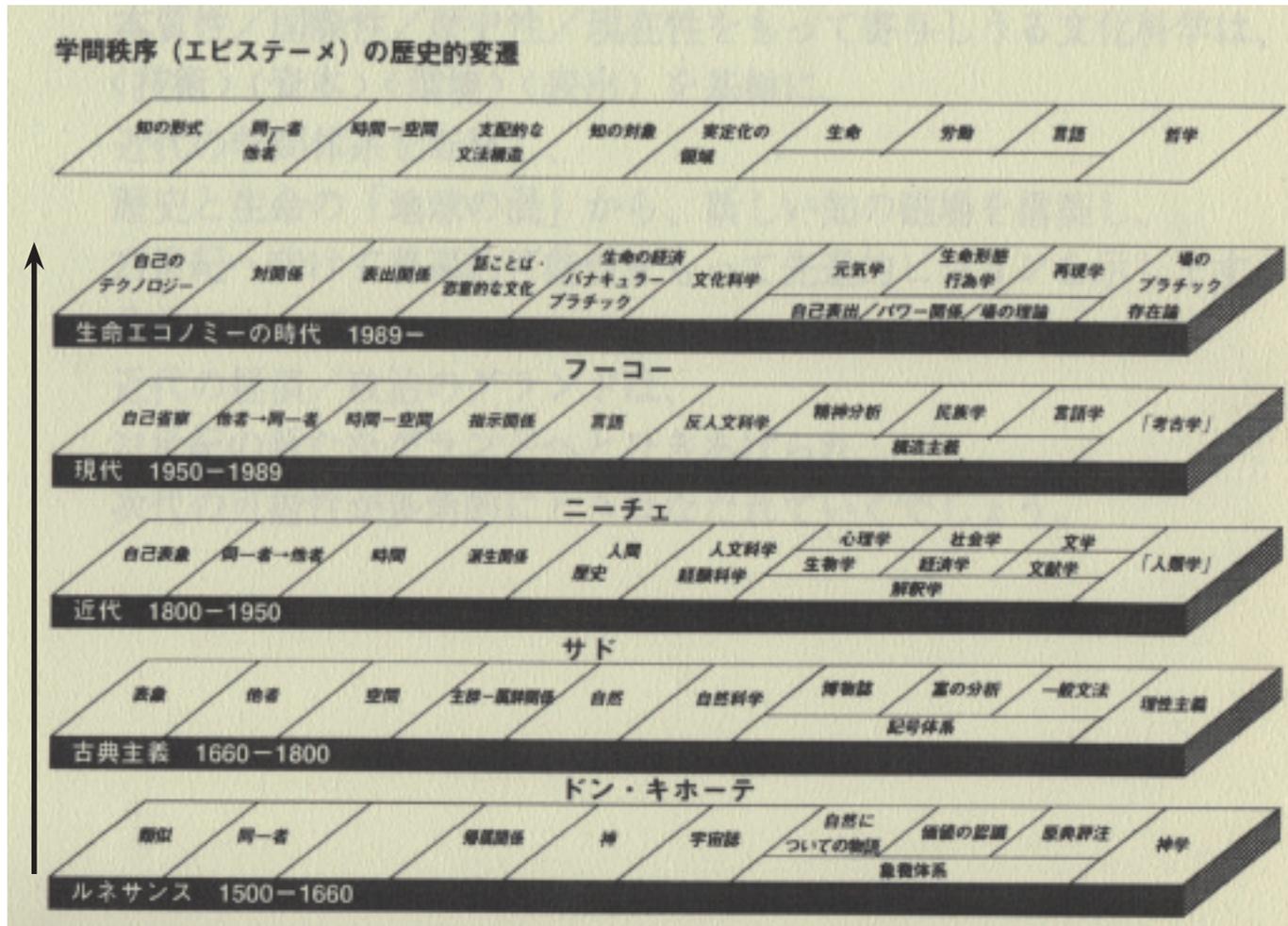


文化資本の時代

## 学問設計の転移指標

超領域的・高等研究の学術的諸範疇、諸概念、その実定性は、高度な検証・省察を要しますが、日本の原理である「述語制・非分離・場所・非自己」から構成されていくのは確かです。西欧の「主語制・分離・社会・自我」の学問設計原理に代わるものです。

特に、近代の客観的科学的主義の分離科学に代わる  
 述語的な非分離科学を概念規定する超領域的な文化科学を  
 明証に実定化せねばなりません。  
 日本の文化技術の歴史的な蓄積の中に、  
 多くの可能条件が潜んでいます。



## 学術設計における物事の地盤変え

● **新たな哲学を作ります** …「分離・主語制・社会・自我主体」の西欧哲学に代わる「非分離・述語制・場所・非自己」（日本原理の普遍化）の哲学設計の考究

● **新たな学問体系を作ります** …近代学問体系の専門分類に代わる超領域的専門体系の学問設計の考究

◎ **新たな言説を作ります** …これらの言説生産、イメージ生産の表現表出の考究

● **新たな環境を作ります** …「社会空間」の均一・均質設計（規範社会）に代わる多元的な場所⇨地球環境のパブリック設計の考究

● **新たな技術を生み出します** …主客分離の客観的科学技术に代わる「非分離の述語技術」開発の可能条件…日本の文化技術をふまえた新たな技術設計の考究

◎ **新たな経済を作り出します** …二十世紀型の商品・サービス経済に代わる二十一世紀型の「資本・ホスピタリティ経済」の可能性の考究

● 国民画一市場に代わる「場所多元市場」の開発…市場形態

● 賃労働形態に代わる元気な文化資本者の「ワーキング」体制の活性化…労働形態

● 組織経営におけるホスピタリティ・マネジメントの開発…組織形態

● 情報技術における「情報生成」システムの活用開発…情報形態

● 欲望・快楽の経済に代わる「欲動・享楽の経済」…CSの転移

● 顧客の多様な資本様態とその「ライフスタイル」に対応する経済の開発…ライフスタイル研究

● 企業の社会的責任に代わる「パブリックな責任」の構成…CSRの転移

● グローバル経済に代わる「場所⇨地球」経済の課題…環境形態

■ **日本文化の本質の考究と他の諸文化との比較考証**…文化を活用した新経済の開発…文化資本・言語資本&技術資本

■ **これら歴史系譜の文化史考証と新たな歴史設計の考究**…歴史資本・場所資本

■ **国家資本へ活用するビジョンをもった諸デザイン設計のビジュアル化**…述語制の文化資本をふまえた政治資本形成の考究を含む…**国家資本・情報資本**

■ **人と人とのコンビビアルな元気な関係構成**…**関係資本**

【資本開発及び文化資本とは】

経済活動、技術開発の基本・基盤には「文化」が必ず作用しています。経済資本・政治資本が稼働するには、組織体としてのまた構成員の「文化資本」があつてこそなされます。文化資本とは、文化力、歴史力、場所力、環境力、文化技術力、感覚・心的力、創造力、身体技術、組織力、企画力、マネジメント力など総体の資本です。文化資本を高めることが、経済資本・政治資本を高め、増強します。経済資本・政治資本、社会関係資本、象徴資本、技術資本、財務資本、情報資本など諸資本の総体を領導するのが「文化資本」の力です。さらに、日本には非常に高度な文化資本が、欧米の設計原理を超えて歴史的な遺産としてしかも世界的普遍性としてあります。それは、経済開発、科学技术開発にも役立ちます。世界の大転換期において、大卒次元の人材能力水準では対応できません、新たな文化資本形成が要されます。商品・サービス・客観的科学技术の産業社会経済を超える、資本・ホスピタリティ・述語的文化科学技术の高度な資本経済を多様に開発していくことです。

● 既存の商品・社会経済を超える「新資本経済」を探究・開発します。多様な場所環境に立脚した多元経済の秩序を、文化形成とともに探究・開発します。

● 既存の学会・学術を超える高度な「超領域」専門研究をなします。多領域の協働研究開発です。

● 既存の一般知識ではなく、高度なプロデュースング／マネジメント／アドミニストレーション／エディティング／クリエイションのスキル人材を育成します。

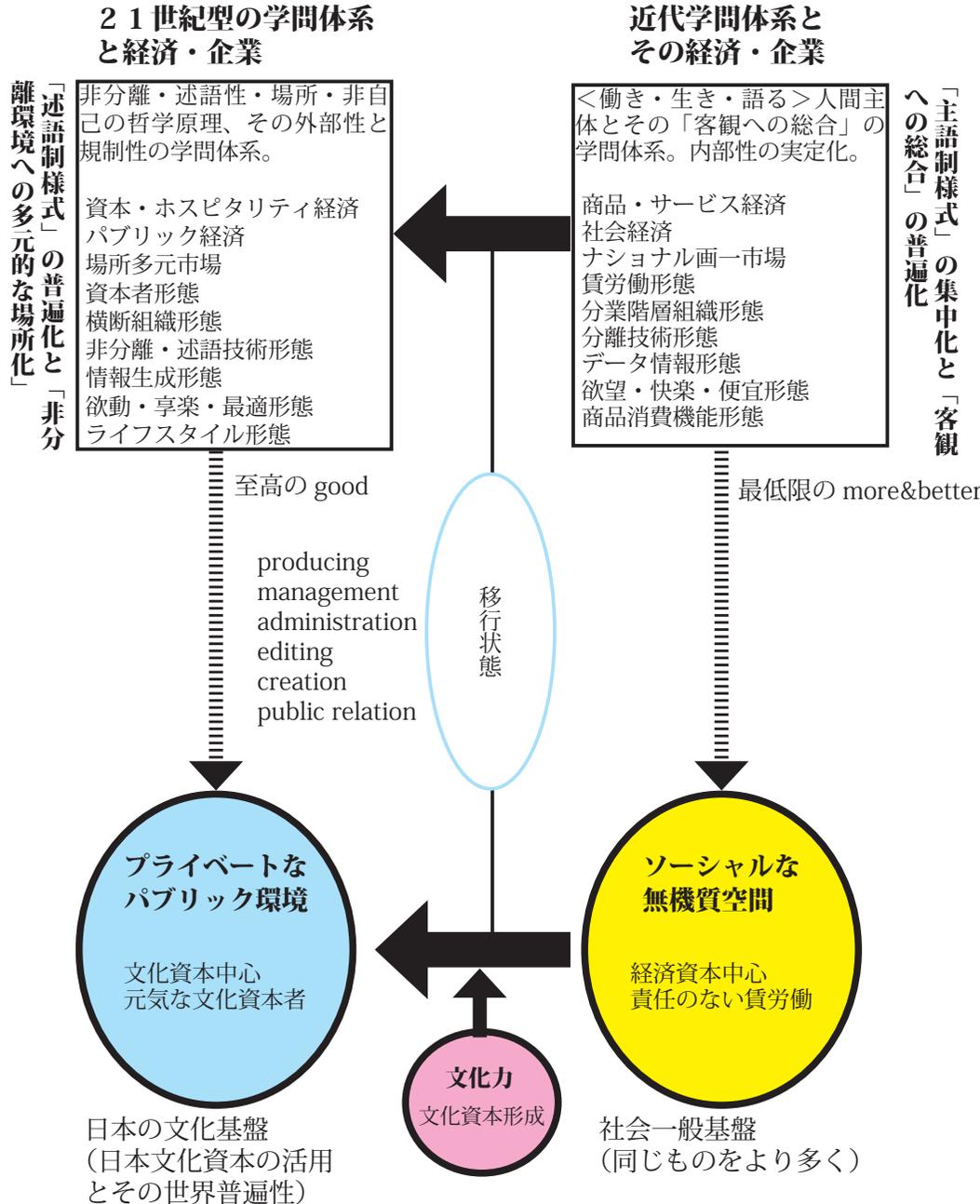
● 日本の国家資本を高め、それに見合う政治資本への提言、文化資本の再形成、経済資本の高度化を推し進めます。ビジョン設計、ビジュアル化、具体実行を開発します。

消費要素をアレンジすることではなく  
新たな生産体系をアレンジしていくことです。

# 学術設計と資本経済開発との協働関係

## 学問設計と経済設計の飛躍へ

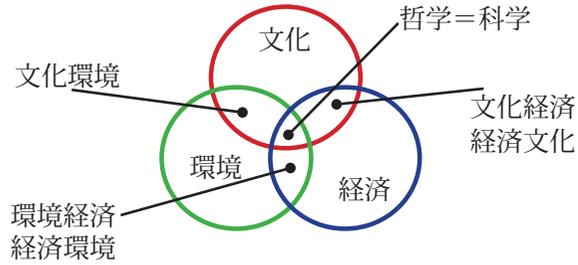
近代学問の分離・主語制・社会・自我主体の内部性の、専門分類化された教義原理は、「主語制様式」への集中化と「客観への総合化」の国家資本となつて、経済企業、科学技術、社会生活、政治統治を規制してきました。その「商品・労働集中社会」は限界へといたっています。環境・文化・経済の非分離世界を構築する新たな「資本経済」は、述語制・非分離・場所・非自己の設計原理による場所||地球の多元的な統治技術における、プライベートな多様性が至高に活かされたパブリックな環境の構築です。



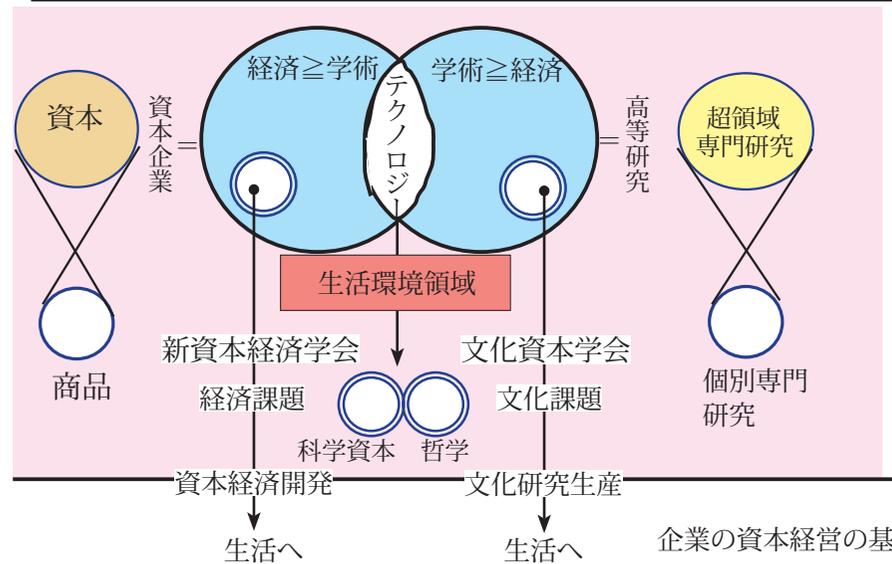
# 文化と経済の逆立の超克システム

学術生産と資本経済生産との相反共存によって、文化と経済と環境の逆立を超える探究とシステムの内臓化

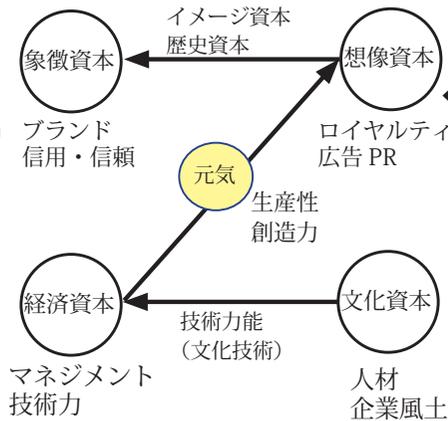
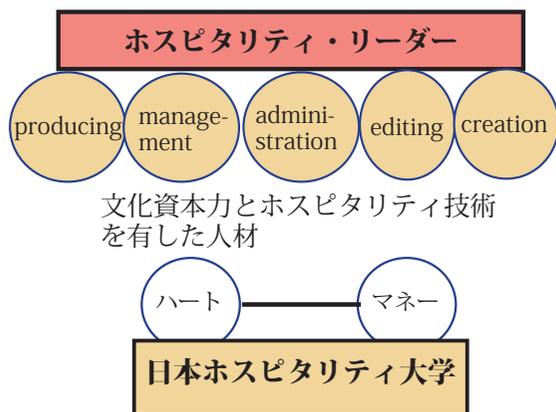
文化資本学会はビジョンをビジュアル化し、  
資本経済学会はビジュアル化を実際化します。



日本高等学術会議は、  
文化/環境/経済の共存・調和の世界を探究し、  
資本開発します。



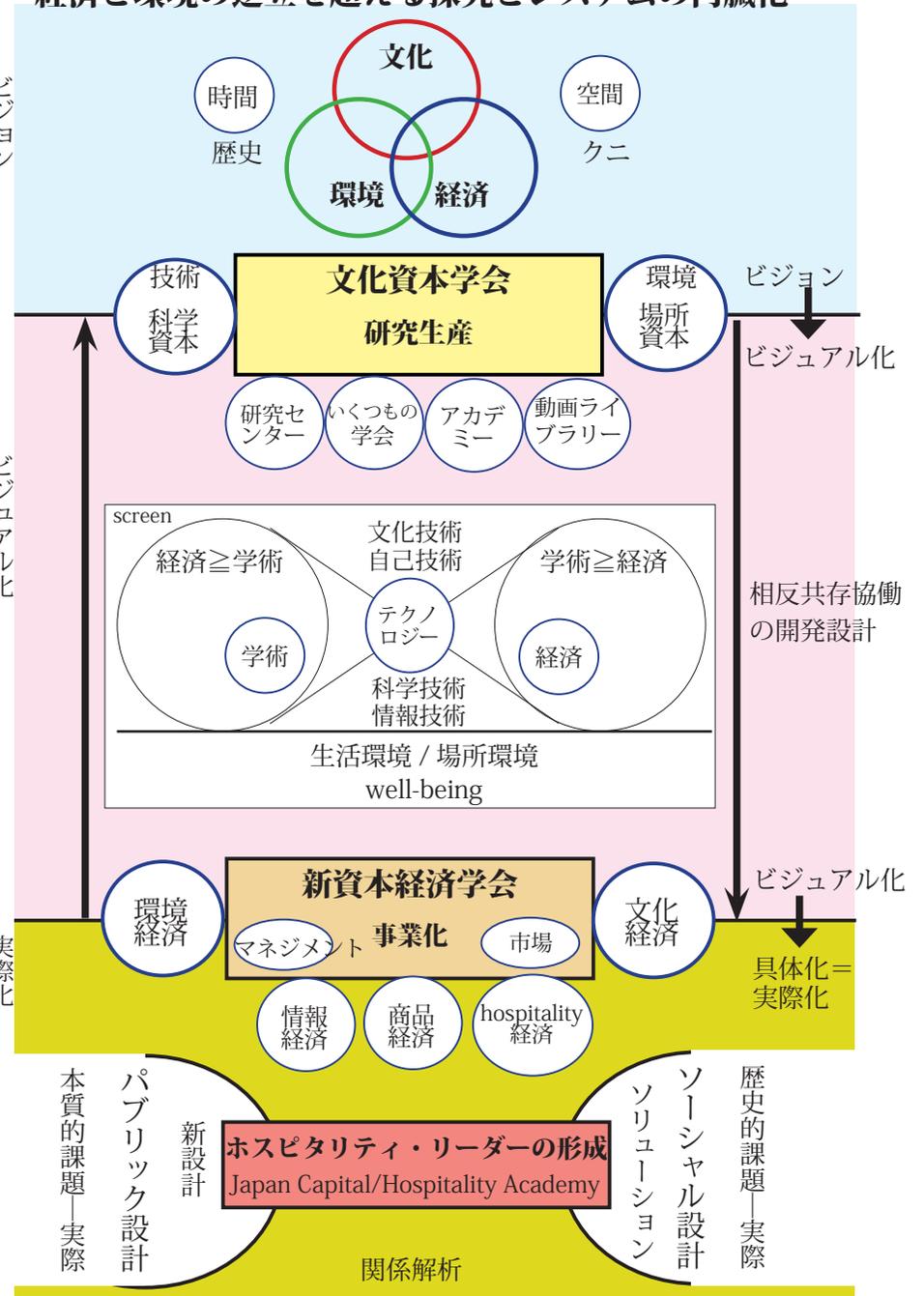
企業の資本経営の基本枠



ビジョン

ビジュアル化

実際化



# 高等学術研究と新資本経済活動との有機的協働

諸企業の発展・強化と高度な学術考察とによって新たな資本経済を創出し、コンサル部門から課題とソリューションを提示し、諸個人の文化資本をホスピタリティ技術と共に形成し、多様な諸資本を担う人材を育成していきます。

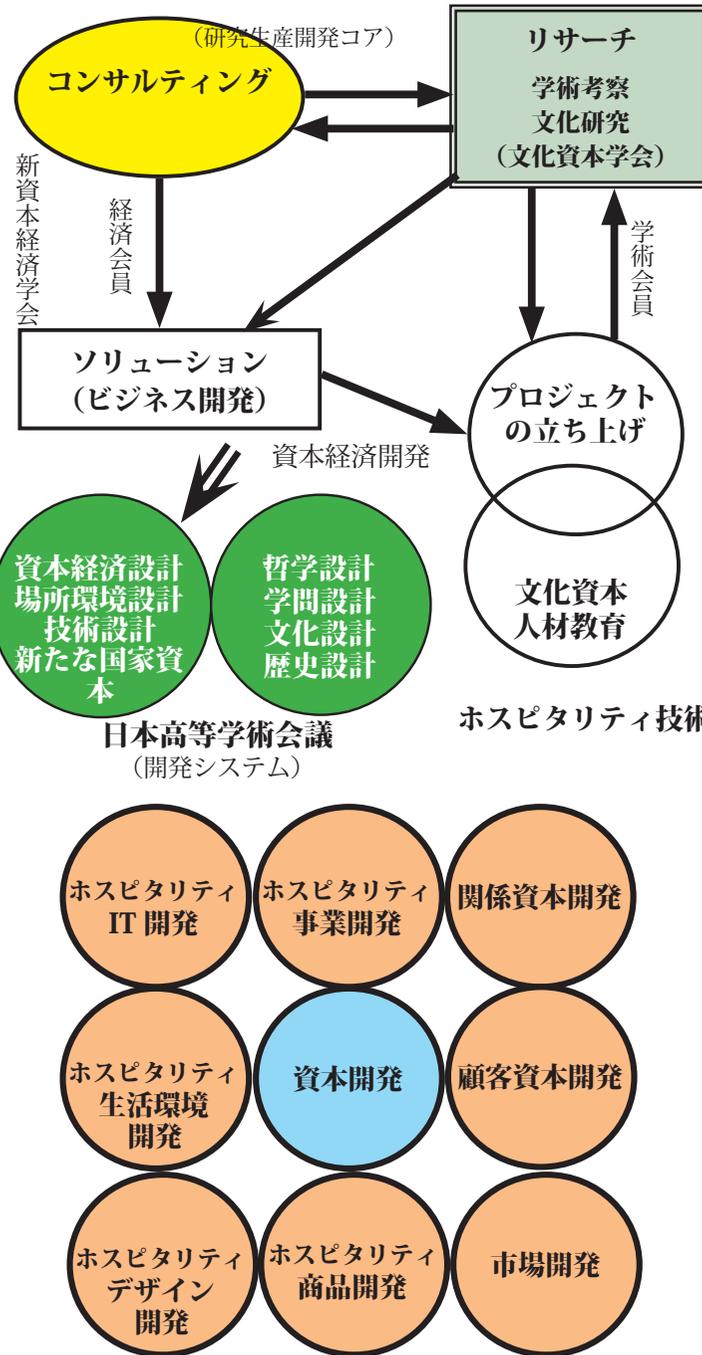
資本開発とは、学術開発、文化開発、技術開発、環境開発、企業開発の有機的な総合固有の開発です。

文化資本学会が、学術に特化した高等研究を開発しますが、その研究生産プロジェクトをもって現実世界に対応していきます。

コンサルティンク部門が、諸企業が抱えている実際課題や開発可能条件を具体的に把握し、ソリューションしビジネス開発します。

諸企業の「関係資本」を構成する新資本経済学会が、実際現場の課題とその諸資本経済化開発を協働ワークし、そこに企業人による新資本経済学会が問題を高等研究へ提起していきます。

そして、経済と学術・文化とが非分離のシステムをもって、日本・世界へ役立てるシステムを構築します。



(将来的な高等研究機関概要)

## 日本の文化科学の家

日本の美・わざ・ものと哲学・経済  
日本文化資本のエキスがある

japan hospitality ホテル

日本の着物タジェール  
染織技術育成

日本の伝統文化技術  
日本のデザイン

日本芸能の舞台  
小映画館

高等学術研究  
ビジネス・インキュベーション

高等知の教育  
オープンカレッジ

日本の場所の食、  
レストラン カフェ

日本のくもの>ショップ  
茶室

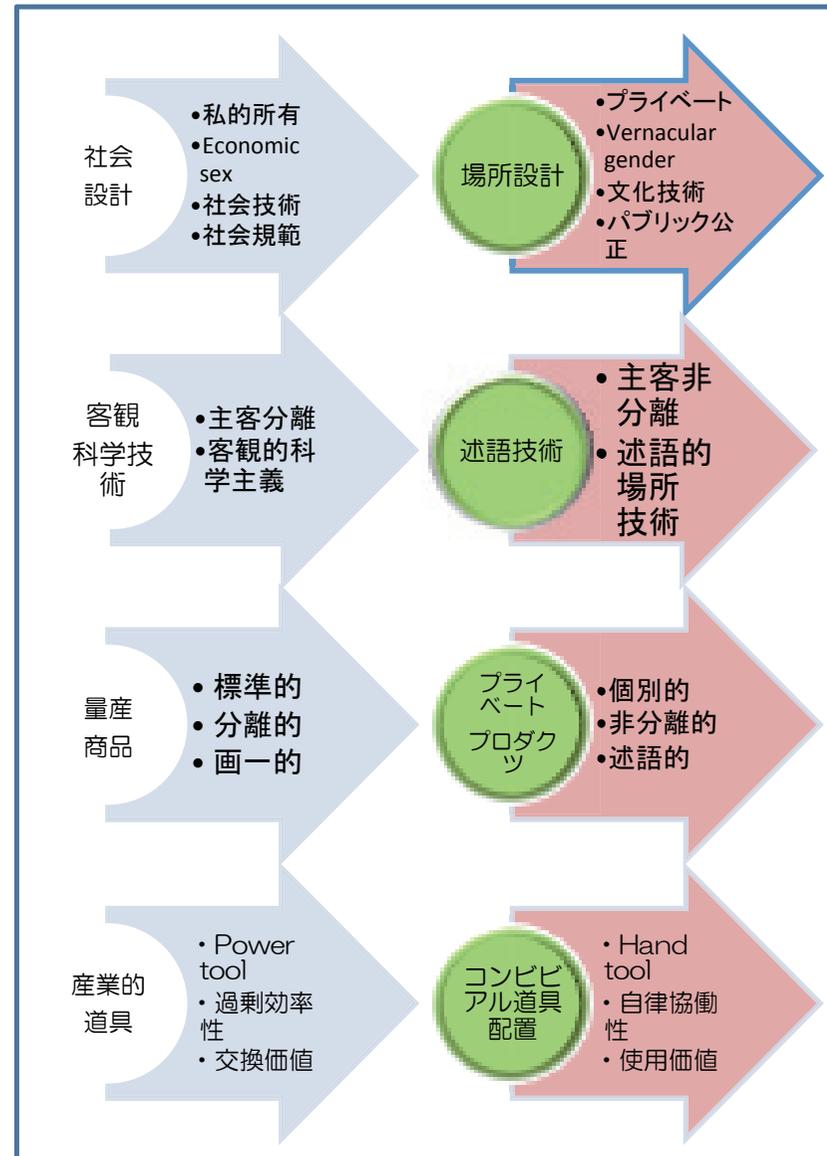
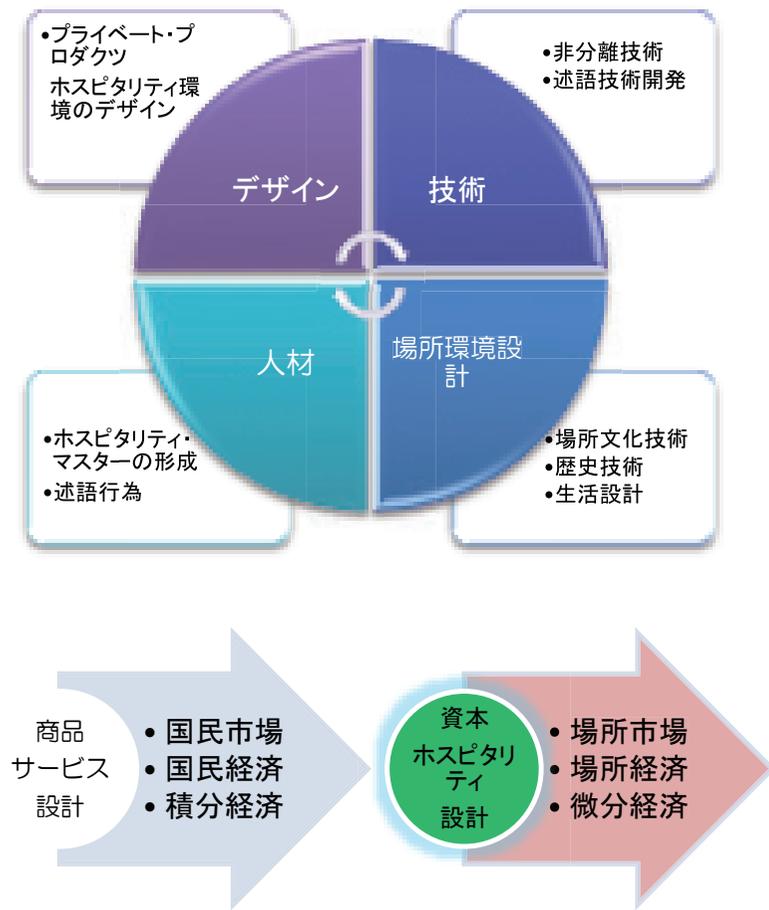
日本のくもの>展示場、  
イベントスペース

着物、草履に着替える

日本資本ホスピタリティ大学院

## 資本と技術のシフト：ホスピタリティ技術・モデル

技術は、総合的な構成です。  
産業的な分離技術モデルを  
ホスピタリティ・非分離モデルへ変容します。

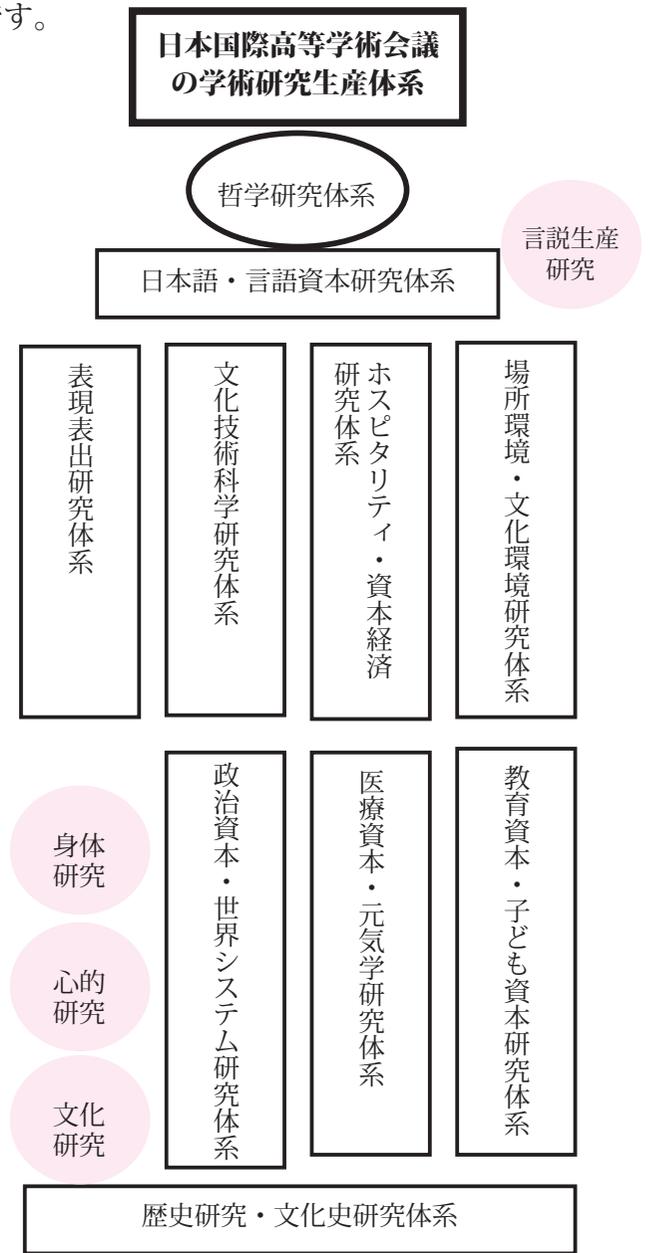
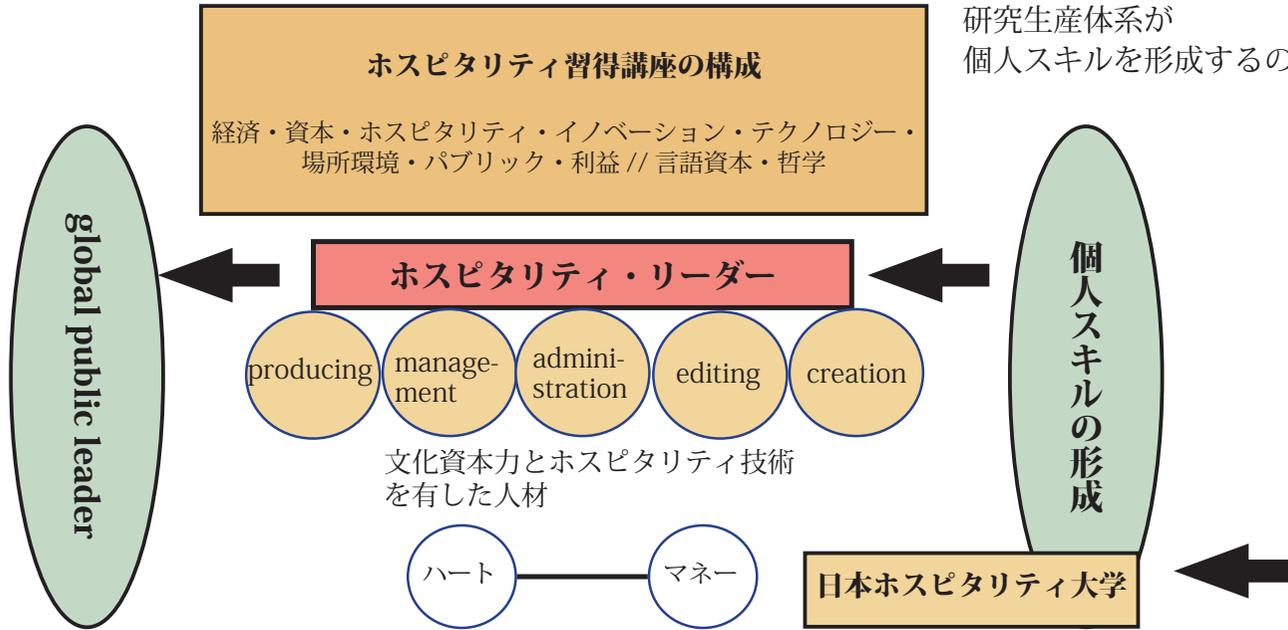


ホスピタリティ技術による諸資本開発は、  
様々な次元・領域におけるシフト設計をなします。  
そのシフトには高等学術生産が不可欠です。



# 研究生産体系と個人スキルの関係

研究生産体系が個人スキルを形成するのです。

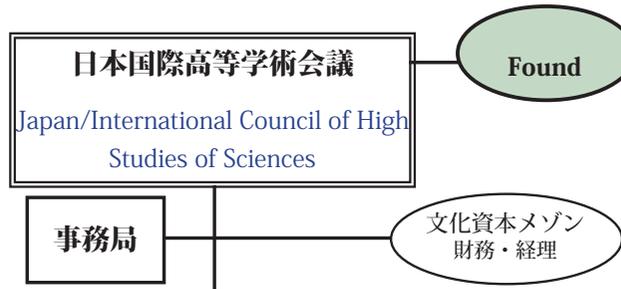


個人力・自己技術	時空世界				環境構成
	生命的時空	美的時空	表現的時空	歴史的時空	
本質力	非自己	非分離	述語制	場所制	文化環境
表現力	自己表出	指示表出	述語表出	物語	表現環境
感覚力	享楽	情緒感覚	美的感覚	記憶	心的環境
客観力	場所環境	資本環境	技術環境	歴史環境	歴史環境
構成力	総体化	卓越性	差異化	時間化	想像環境
実行力	環境把握	創造性	企画化	過程化	技術環境
時代・現在力	世界認識	想像力	対応力	歴史認識	元気環境
責任力・指導力	producing	management	editing	adimistartion	政治環境
仲間・協働力	コンビビアル	対的關係	他律力	組織化力	交通環境
体感・経験力	自然・生態環境	景観	enjoy/play	歴史都市環境	教育環境
自己の企業	企業環境	デザイン環境	生産環境	企業風土	資本環境

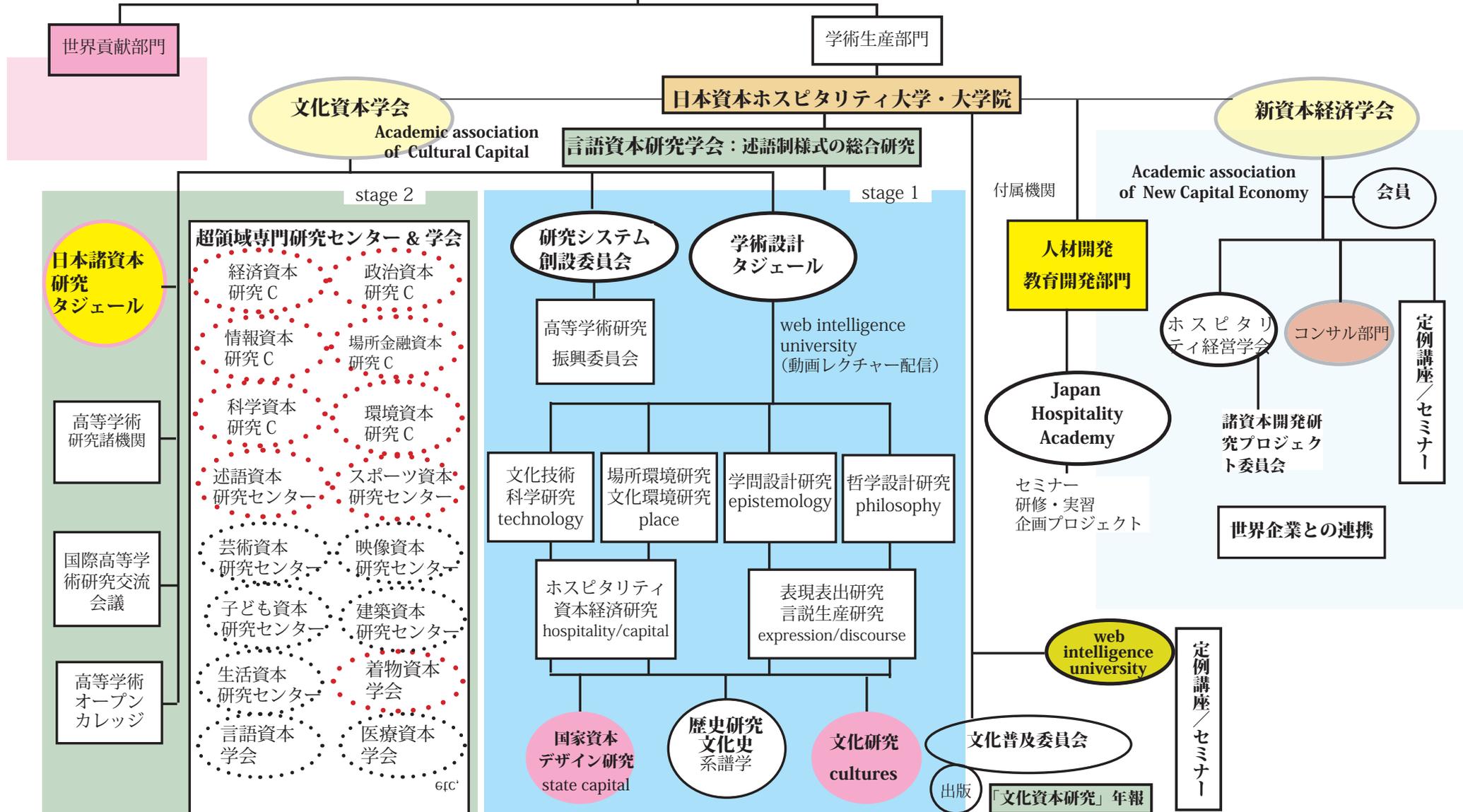
カリキュラムのスキル形成指標

# 構造的な形成段階

日本の文化・歴史・技術を資本にして新たな日本資本の開発をなす



学術設計タジェールが、高等研究生産と新資本経済生産との相互関係を開発します。その初源地盤に「言語資本の述語制様式の総合研究」を配置します。



日本国際高等学術会議は、高等学術研究の実行とその実際の活用をなすべく「文化資本学会」の学術と「新資本経済学会」の企業協働とコンサル部門とを開発コアにおいて、現実實際を踏まえた高等学術システムの諸構築へととりくみます。

学術と実際資本経済と人材開発形成が円滑に推進されるために、一般的な理事会・幹事会などの官僚的組織運営をなすのではなく、事務局統轄の下での活性的な運営をなします。財務は、プロジェクト運営など含め「文化資本メゾン」が統轄管理します。

### ● 研究生産プロジェクト委員会

実際に役立つ研究生産を資本経済プロジェクト化します。

### ● 学術設計タジェール（仕事場）

哲学設計、学問設計、環境設計、技術設計、資本設計、さらに歴史設計・文化設計など、言説生産・イメージ生産をもって、資本経済に寄与する学術の地盤変えをなす。

### ● 研究システム創設委員会

研究施設やシステム、研究の場所を設計開設していきます。若手研究者の場を構成していく必要があります。そして高等学術研究の振興をはかります。

### ● 日本諸資本研究タジェール

日本の様々な場所に潜在する多様な可能性ある諸資本をリサーチ、研究し、その原理を普遍化し、実際の技術や物事に活用していくと共に、その貴重な文化技術遺産を継承していく仕事場を保存・構成し、世界貢献しうるよう国際交流します。

### ● 国際高等学術研究交流会議

世界の超領域的専門研究・知の遺産を学び、その研究者たちとの交通をなします。世界各地で、国際研究フォーラムを開催します。

### ● 高等研究諸機関の創設

環境、情報、生命、医療、政治、などの高等研究機関を創設。

### ● 高等学術オープン・カレッジ

本会議に所属する超領域的専門学者の一般へ向けた講演、講座、セミナーの開催。

### ● 超領域専門研究の各種研究センター&学会のネットワーク

超領域的専門研究センターを配備し、本会議に所属・登録された学会は、それぞれ自由に個別運営されますが、研究協働を必要に応じて組み立てます。

### ● 高等知的人材とホスピタリティ人材の育成

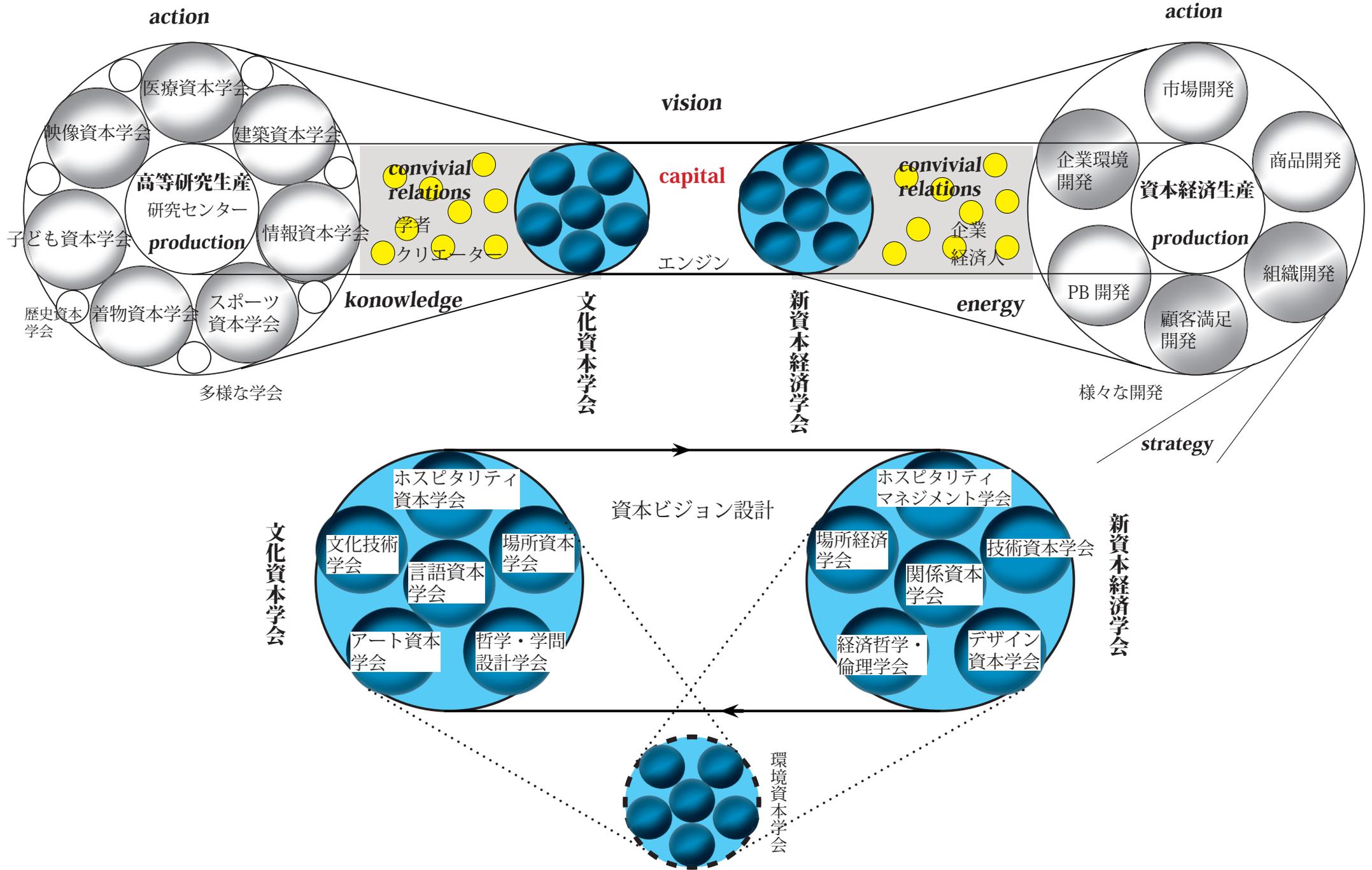
#### Japan Capital/Hospitality Academy

超領域的研究者の育成、各分野で活動しうる高等知性を領有した人材の育成。

### ● web intelligence university

講座の録画公開。動画ライブラリー。

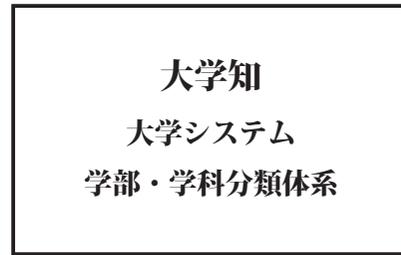
日本国際高等学術会議のコンセプト図



# 【付】 大学知と超領域的な高等研究知との違い

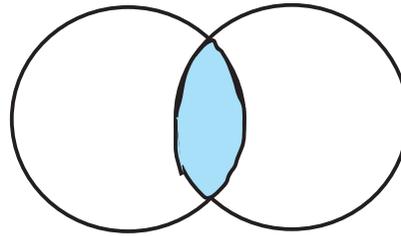
大学知は、専門分類をさらに精密に細分化し、そのシニフィエ＝意味されたものを真理として客観化する思考方法と言説化をなします。部分を他から切り離して分離し精密化すること、すでに在ることを整序し、論証されたことを現実的事実である、とします。近代学問体系に属します。学問と現実世界を切り離します。主観は人間主義へ、客観は客観主義へと分離されます。

超領域的知は、真理は生産されるものであること、物事はシニフィアンとしてみていくこと、一つの総体的な部分（例えば「私」）に全体（つまり世界）があることを把握していきます。客観化に止まらずに、「客観化の客観化」の次元を開きます。主・客がメービウスの帯状のように同一面にあると考えます。近代学問体系から脱していきます。学術を現実世界とは切り離しません、非分離に配備します。新たな現実を作っていく研究生産をなします。研究生産は、大学システムとは違った、対象・技術・言説・主題をもつての創造的アクションです。



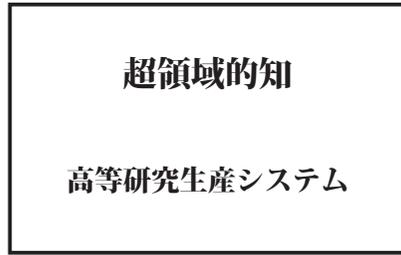
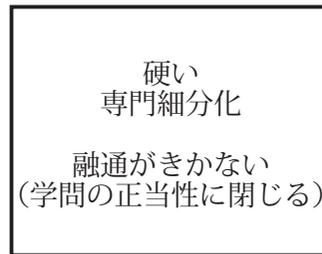
主客分離  
現実との分離  
客観化

シニフィエを整序



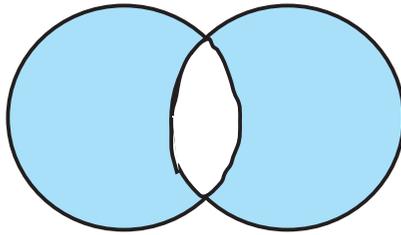
内部性

シニフィエされたものが真理



主客非分離  
現実との非分離  
客観化の客観化

シニフィアンを探究



外部性

真理は生産すること



日本ホスピタリティ大学